



木村前支部長より、退任のご挨拶をいただきましたので原稿をそのまま掲載しました。

会員のみなさん全員で、木村さんの労をねぎらっていたきたいと思います。

道退教胆振・室蘭支部長 木村 政 幸

「楽しみ7分、活動3分」から「楽しみと活動の統一」に

平成13年度、第20回総会にあたり、役員を代表してひとこと挨拶を申し上げます。例年5月に開催されております総会が、延び延びになった事を遺憾に思います。ご承知のことと思いますが、幹事長が病魔に冒され、手術、長期の療養で業務を離れ、その上、参議院選挙の日程と重なり、延び延びになりました。

お許しをいただきたい思います。

5月18日(土)第22回道退教定期総会が開催されました。

総会では、例年、米寿・喜寿者の顕彰があります。今年は、米寿者10名、喜寿者49名の多くになりました。

胆振支部からも、米寿者1名、喜寿者5名の顕彰者がありました。

顕彰者の岡部芳郎氏(後志・小樽支部)も総会に参加しておりました。

総会後の懇親会で発言しました。「退職後、妻が痴呆徘徊になり、活動と介護で大変でした。一時は妻と自死も考えました。会員の励まし、支えで今日まで、生きてこられました。会員であることを誇りに思い、これからも活動したいと語りました。(終わったあとしばし拍手が続きました)

道退教は、このように退職者の活動の拠りどころであり、生きている事の証でもあります。

道退教の活動は、今年も多くの活動成果をあげました。

「ゆきとどいた教育を求める全国署名は」は4870筆（カンパ4000円）でした。札幌支部では多くの人に参加するように、駅前集団署名を実施しています。参加者も、会員全体の33パーセントにもなっています。

その中で、胆振支部は不振でした。昨年の23パーセントから13パーセントに後退しました。活動への取り組みと検証が求められます。

道退教各支部は、高齢化という課題をかかえつつ、会員の連携を強める活動をしています。胆振支部でも、親睦宿泊、学習会、継続的なニュースの発行（ヒマワリ）、特に、各地区の行事、ニュースの発行（室蘭・苫小牧地区）と顕著な活動もありました。会員の高齢化、会員減少という課題への取り組みという大きな課題もります。

結成21年目を迎え、道退教の存在意義についての討議も起きています。

全退教は、「活動3分、楽しみ7分」から「楽しみと運動の統一」と活動指針を進化させました。新しい道退教の活動を展望する、討議が必要としています。

私事ですが、今回をもって役員を退くことになりました。副支部長8期16年、支部長1期2年、（そのあいだ、道退教監査4期8年）役員をさせていただきました。なんとか役員を全う出来たのは、ひとえに会員の皆様のご支援があったと、深く感謝申し上げます。

今後は、一会員として、会の発展に微力を尽くしたいと思います。

長い間ありがとうございました。

平成23年7月23日